

令和5年度第1回鎌倉市冒険遊び場協働運営事業推進検討委員会 議事録

日時： 令和6年(2024年)3月26日(火)

10時00分～12時00分

場所： 市議会第2委員会室

及びオンライン会議

(Microsoft Teams)

議事次第

- 1 開会
- 2 令和5年度事業報告 (NPO 法人かまくら冒険遊び場やまもり)
- 3 令和5年度事業報告 (こども支援課)
- 4 質疑応答・意見聴取
- 5 閉会

委員出欠 (敬称略)

氏名	選出団体等	出欠
磯部 久仁子	鎌倉市立小学校長会	欠
河野 匡孝	鎌倉市社会福祉協議会	欠
志村 直愛	東北芸術工科大学 デザイン工学部 建築・環境デザイン学科	出
後藤 光葉	鎌倉私立幼稚園協会	出
出川 克己	NPO法人 鎌倉市市民活動センター運営会議 協働事業推進部会	出

松本次長

定刻になりましたので、ただいまから令和5年度第1回鎌倉市冒険遊び場協働運営事業推進検討委員会を開始いたします。

こどもみらい部次長を兼ねましてこども支援課担当課長の松本です。

本日はお忙しいなか御出席いただきまして、ありがとうございます。

令和元年度11月から開始した本事業も、早いもので5年目を迎えました。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、事業開始当初に予定していた通りにならない部分も多くありましたが、子どもたちが自由にのびのびと遊ぶことのできる遊び場の提供を目指し、協働事業者とともに実施してきたところです。

今後は、これまでの運営で出てきた課題等に取り組み、事業内容がさらによりよいものとなるよう実施してまいりたいと思います。

本日は、オンライン会議ではありますが、忌憚のない御意見、御提言をいただきますようお願い申し上げます。

本日は河野委員、磯部委員から欠席のご連絡をいただいております。

本日ですが、委員5名中3名の御出席をいただき、鎌倉市冒険遊び場協働運営事業推進検討委

員会設置要綱第5条第2項に定められる定数を満たしておりますことをご報告申し上げます。

【委員長・副委員長の選出について】

それでは次に当委員会の委員長・副委員長の選出に移りたいと思います。

鎌倉市冒険遊び場協働運営事業推進検討委員会設置要綱 第4条第2項によりますと、委員の互選ということになっておりますが、オンライン会議ということもありましたので、委員長には前回の会議から引き続き志村委員に、副委員長は、前回の会議まで社会福祉協議会からご出席されている委員をお願いしておりましたため、河野委員をお願いさせていただきたいと考えております。

なお、河野委員は本日ご欠席されておりますが、事前に副委員長の就任を打診いたしまして、お引き受けいただける旨ご回答いただいております。

皆様いかがでしょうか。

【承認】

ありがとうございます。

それでは、恐縮ではございますが、委員長を志村委員に、副委員長を河野委員にお引き受けいただきたいと存じます。

つきましては、志村委員長に、この後の議事進行をお願いできればと思います。よろしく願いいたします。

志村委員長

よろしく願いいたします。

それでは皆さん改めましておはようございます。

オンラインに慣れてるのは大学とか、意外に市民の皆さんの方が慣れていて、役所は施設の問題だとかいろいろ大変なところがございます。ご苦勞を偲ばれるところですが今日はどうぞよろしく願いいたします。

この鎌倉冒険遊び場も5年を過ぎてということで、ずいぶん時間がたっております。

度々オンラインの会議になってしまっておりますので、最初の頃は皆さんとお会いできたんですが、それ以来対面での機会がなくて皆さんとはお会いできておりませんが、活動の方は順調に進んでいるようで、鎌倉市内においても役所と市民グループとの間で取り行っている協働事業としては、なかなか注目すべき案件ではないかなというところです。

これも、皆さんのいろいろなご意見をいただきながら進めている一つの大きな成果ではないかな、というふうに思いますが、今日5年目の区切りというところで朝早くからお集まりいただきましてありがとうございます。どうぞそんな事情でございますので、今日も忌憚ないご意見をたくさんいただいて、運営を支えていただければありがたいなというふうに思っております。

それでは次第に沿って進めていきたいと思っております。最初にこども支援課から本日の委員会の概要についての説明をお願いいたします。

事務局

こども支援課担当係長の中橋と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の委員会の概要について、ご説明させていただきます。

まず、本委員会の主旨でございますが、鎌倉市冒険遊び場協働運営事業の推進に関し、検討するための幅広いご意見をいただくことを主たる目的とするものです。

本日は、令和5年度事業について、協働事業者であるNPO法人かまくら冒険遊び場やまもりとこども支援課からご報告をさせていただき、委員の皆さまからご意見等をいただきたいと思いません。以上です。

志村委員長

はい、ありがとうございます。こども支援課からの説明でしたが、これに対しまして何かご質問ご意見等ございますでしょうか。

ご意見ないようですので、これより次第1に入ります。鎌倉市冒険遊び場協働運営事業の事業報告に移りたいと思います。

それでは事務局の方から説明をお願いします。

事務局

では、令和5年度事業について説明をいたします。はじめに、協働事業者でありますNPO法人かまくら冒険遊び場やまもりの皆様からご報告をいただき、その後こども支援課からご報告をするという形で進められればと思っております。

なお質疑の応答につきましては、両者の事業報告が終わってから行わせていただければと考えております。よろしくお願いいたします。

では、まずNPO法人かまくら冒険遊び場やまもりの皆様、よろしくお願いいたします。

協働事業者

おはようございます。かまくら冒険遊び場やまもり理事長の坪井と申します。

本日は理事長の坪井と理事の杉本の2名でご説明差し上げたいと思っております。宜しくお願い致します。鎌倉市冒険遊び場協働運営事業 令和5年度事業報告を行います。今回の報告資料は、事前資料と、本日の当日資料と合わせて報告と致します。

本日は遊び場やイベント時の様子を写真中心でお話しします。

3-1と3-2. 来年度の課題と対策、今後に向けてと本事業の方向性と目標です。課題と対策を中心にお伝えします。皆様のご意見もぜひ伺わせて頂けたら嬉しいです

今年度はコロナ感染症の影響が徐々に緩和され、日常生活も元の環境に戻ってきました。冒険遊び場梶原では、中学生利用の増加、夏休み利用の増加より、鎌倉市内での周知が広がってきて

いることがわかります。

また、今年度は「孤立しない子育て、取り残さない環境づくり」の一環として、子育て支援センターとの連携を強化しました。子どもは月齢によって、遊ぶ場所や遊ぶ内容などが変化します。そんなときに、「ここもあるよ」とお知らせができ、遊ぶ場の選択肢のひとつとして知って頂くことができます。また、お互いにスタッフや環境の様子を知っているからこそ、安心してお互いを案内できるなどとても良い連携となりました。事前資料より、利用者数から分かることとして、夏休み利用が昨年より増加し、常連の子供たちも地域の子どもたちも1日を自由に過ごしていました。

また、今年度は昨年常連だった6年生が中学生となり、中学生の利用が増加しました。中学生の利用は2階ホールでの卓球が中心です。時には小学生との対戦でも盛り上がります。進級・進学の変化があっても、遊び場を居場所の一つとして利用してくれていることがわかります。

続いて学年別の利用状況です。1,2年生の利用が特に多く、他の学年は同じくらいの割合で利用していることがわかります。曜日別では、水曜の午後の利用人数はきわめて多く、水曜日は深沢小学校、中学校とも下校時間が早いためです。子どもにとって貴重な時間として、とてもよい取り組みだと感じています。

また、土曜日は午前午後ともに利用が多く、特に低学年利用が多くなっています。利用者が多いと想定される時は、スタッフを増員して対応しています。

続いてかまくら冒険遊び場の梶原の普段の様子をお伝えします。今年はたくさんの方とつながり、遊び場の充実につながりました。山道づくりをしているボランティアの方のご協力で、山の整備が進み、より子どもたちが安全に楽しめるようになりました。土場ではごっこ遊びや穴掘り、山の上では基地づくりや鬼ごっこ。スタッフが山の手入れをしていると、それさえも子どもたちには遊びになります。

次は、いつも人気のブランコですが、山では樹木医でもある業者の方に木に負担の無い掛け方を教わり、新しいブランコを設置していただきました。

室内ではのんびり漫画やゲーム楽しんだり、2階のホールでボール遊びをしたりと、子どもたちは思い思いにそれぞれの場所で遊び場を楽しんでいます。

次はおやこサロンの様子です。全28回開催したおやこサロン。途中から申し込み方法にGoogleFormを採用したことで、申し込みしやすい、との声を頂きました。

3B体操やヒッポファミリークラブなど地域で活躍する方々を講師に招いて、バラエティ豊かなサロン内容となっています。またこのおやこサロンでは未就学児親子の関係づくりを応援しています。

左の写真は昨年からはじめた「おとなの手仕事」。こちらは子どもたちを見守りながら、大人たちもおしゃべりしながら手仕事を楽しむ企画です。

右は12月に開催した「遊び場のおはなし会」。午前中利用がなかなか伸びないのですが、日々新しい内容のイベントにチャレンジし続けることでニーズを探っています。

次は、大人の方だけでも遊びに来られる地域イベント「オープンデー」の様子です。

4月の地域イベントでは地域のお父さんを招いてミカエル幼稚園から寄付していただいた遊具を山の上で蘇らせました。子どもたちも一緒にインパクトドライバーを使ったり、大人の姿を真似しながら、さくら広場で木工を楽しみました。

続いて5月にもオープンデーを開催しました。「峯山の会」の方たちと一緒に花壇を作るというものです。出来上がった花壇にはかぼちゃ、スイカ、さつまいもを植えみんなで収穫しました。また遊び場で調理ができるようになったらみんなで食べたいね、と話しています。山の広場では木工も楽しみました。

次は夏の地域イベント「夏まつり」です。昨年の土曜開催でたいへん混雑したことを鑑みて、今年は土日の両日開催としました。初めての日曜日の開館で、いつもは習い事があって来られなかったから嬉しい！といくつもの声をもらいました。初日の土曜日があいにくの雨で、イベントの遊びを2階ホールで行ったのですが、常連の子どもたちからはいつものボール遊びや基地遊びなど自由な遊びがしたい！との意見が。これにはスタッフも大いに反省。二日目には天気も回復し、屋外も利用し開催できました。中学生をはじめみんなに人気のある卓球や、小さい子でも楽しめるヨーヨー釣りやボール投げなど、縁日を店番になったりお客さん側になったり大忙しで楽しんでいました。

夏まつりでは、保護者の方達をお誘いして企画から当日のお店番まで関わっていただきました。お母さんのみならずお父さんや、常連の子のお兄さん、お姉さんまで手伝いに来てくれて、一緒にお祭りを盛り上げてくれました。また忙しい中、校長先生も顔を見せてくれました。「あの天気ですんなりに子どもたちが来ていたなんて。みんな楽しみにしてたんですね。いつも子どもたちのためにありがとうございます」とお声掛けくださいました。

次は、12月に開催した開催した今年度4回目のオープンデーの様子です。壁画工房もやっていた岩瀬中学の美術の先生の協力をいただき、中学生を巻き込んで壁画に挑戦しました。支援課の方々にも課を跨いで調整をしていただきました。出来上がった壁画はこちらです。右の写真はジュニアリーダーの皆さんが子どもたちにバルーンアートを手解きしているところです。今年度、青少年課を通してジュニアリーダーの方と交流を持つことができました。1月の出張冒険遊び場でも活躍してくれました。

4月に続き地域のお父さんたちが遊具を増設してくれました。こどもたちも工具をつかったり、応援したり、お手伝い。何ができるか最後までワクワクしながら1日過ごし、階段ができ「わあ～！広いね～高いね～！」の歓声が上がりました。かっこいい大人たちを見つめるまなざしはきらきらしていました。

次は出張冒険遊び場の様子です。鎌倉の全域に遊び場を届けられるように開催場所を検討し、それぞれの地域の方々にスタッフとして参加していただいています。その土地ならではの情報や遊びのアイデアを出していただき、一緒に遊び場を作り上げています。5月は鎌倉地域の浄明寺緑地で開催。ロープ遊びや木工で遊びました。6月は深沢地域の台峯緑地で開催。緑地での基地づくりの様子です。9月は玉縄地域の玉縄児童遊園で開催しました。新しい取り組みとして初の平日午後、水曜日の鎌倉教育研究会の日に合わせ開催しました。水てっぽうで源平合戦をし、ずぶ

濡れで遊びました。日頃から放課後の遊び場に

なっている公園で開催したことで、子どもだけでの参加率が高く、いつもの公園でこんな遊びができるんだ！と感じてもらえたようです。子どもたちの元気な声を聞くことができた平日開催。来年度は2回に増やす予定でいます。12月は腰越地区の広町緑地で開催。ここで定番の遊びは、火おこしと木工です。その他弓矢遊びや広町さんぽなど里山を活かした遊びを展開しています。お正月は大船地区の岩瀬下関防災公園で開催。広い公園で凧揚げや、お正月らしい書初めをしました。今年度最後には深沢地区の鎌倉中央公園で山崎谷戸の会さんとの共同開催をしました。谷戸の会の活動案内をする機会も多くあり、互いの団体にとっていい相互作用になっている出張冒険遊び場です。

来年度の課題と対策、今後に向けてです。課題項目として4項目挙げています。事前資料でも触れましたがいくつかある課題の中でも特に次の2点に重点を置いて取り組んでいきたいと思っています。

1点目、「孤立しない子育て、取り残さない環境づくり」の一環として、不登校の状態にある児童も利用できることを広く周知することに取り組みます。支援課とともに周知方法を検討するほか、周知先などの検討が必要と考えています。これは鎌倉市全体（青少年課や教育委員会やその他子どもに関わる関係機関など）と一緒に取り組む事項とも考えます。周知方法について、皆様のアイデアがございましたらぜひご意見伺わせて頂きたいです。

2点目は、子どもを中心にすえての多世代交流の場づくりです。鎌倉特有の元気な高齢者が多い人口層の中で、どうしても子どもの居場所が少なくなりがちです。現状、小さな公園しかない、広々と遊べる屋内外の遊び場が少ない、居場所のひとつである図書館では読書スペースで勉強していると心苦しい思いをする、といったことが現状です。

すべての機能がこの遊び場で役割を果たせるわけではないですが、遊び場が対象としている赤ちゃんから高校生までの子どもを真ん中にして、子どもたちの遊ぶ場所を地域の元気な大人が支え、見守る。そんな場づくりをこの冒険遊び場でできたらと考えています。

団体として取り組んでいることとしては、地域で開催しているイベントへの参加や里山の保全団体との連携、ボランティアの受け入れなどのきっかけづくりをしています。

来年度は地域の任意団体への居場所提供（無償提供、占有無しでの場所貸出）や、子どもたちを取り巻く環境を一緒に考え、取り組みたいと思います。

その他、小中学校や他機関との連携をはかり、不登校の子やそのほかの子どもたちが利用できる居場所としての周知を図っていき、地域で安心して過ごせる場のひとつとして役割を担っていきたいと考えております。以上で報告を終わります。できましたらお一人ずつご質問やご意見など伺えたら幸いです。ありがとうございました。

事務局

では続きまして、こども支援課から報告をいたします。資料2をご覧ください。

活動内容につきましてはやまもりさんから実態にあったご説明をいただいたと思っておりますので、こども支援課からは利用者数、事業の費用、そして今後の目標や取り組みという3点に絞ってご説明をいたします。やまもりの説明と一部重複しますが、ご承知おきください。

はじめに令和5年度の来場者数についてご報告いたします。

1ページをご覧ください。

令和5年度1月までの1月あたりの平均利用者数は765人、1日あたりの平均利用者数は45人です。小学校の夏休み期間の7月下旬～8月については、火・水・金・土曜日の通常開館日に加え、木曜日も開館していたため、利用者数は1,000人を超えており、夏休み期間中の子どもたちの居場所として機能していることが分かります。次のページは、月別利用者数の4か年の推移を表したものです。下部には、各年度の1月あたりの平均利用者数を示しています。令和5年度については、4年度とほぼ同数となっています。令和5年度の年間利用者数については8,000人を目標値としていましたが、1月末時点までの月平均利用者数から算出すると通年利用者数の見込みは8,200人程度となるため、目標値を達成することが出来そうな状況です。

3ページは、月別の1日平均利用者数を示しており、各年度の1日あたりの平均利用者数を示しています。

4ページと5ページは地域別の利用者数を示したものになります。4ページは令和4年度4月～1月と5年度4月～1月の地域別利用者数を比較したグラフとなっています。続く5ページでは、令和5年度4月～1月における午前及び午後の地域別利用者割合を示したグラフになっています。いずれについても、深沢地域の利用者が全体の70%以上を占めており、特に小学生の利用が主となる午後については80%以上が深沢地域となっています。

次に事業費についてご説明いたします。事業費は大きく分けて、こども支援課で管理執行している「施設管理費」と協働事業者に支出しスタッフの人件費や消耗品費、イベント費用等として事業者で執行いただいている「負担金」の2つに分かれています。

6ページではこども支援課にて管理執行している施設管理費を、8ページで協働事業者に支出している負担金について示しています。施設管理費については、光熱水費の値上がりや施設で発生した雨漏りの修繕や危険木の伐採を実施したことなどによる執行額の増加があったものの、それ以外の部分についてはおおよそ例年どおりとなる予定です。負担金については、イベント等を当初の事業計画どおり実施できていることもあり、令和4年度と同水準となる見込みです。

最後に、今後の本事業における目標と取組について、ご説明します。10ページをご覧ください。事業における目標とそれに対する取組を3点ご紹介します。まず1つ目の目標は「居場所としての役割強化」です。「月1回の日曜日開所」や「ヤングケアラーの居場所としての開所」を行い、孤立しない子育て、取り残さない環境づくりに向けた取り組みを進めます。

次に、地域・多世代交流の活性化です。地域で活動する団体等との関わりを通して、地域で子どもたちを見守る街づくりの一助となることを目指します。

最後に、「冒険遊び場」の周知です。イベント告知について市のSNSで配信を行うほか、事業者で運営するSNSでは、日々の活動内容等のより細かい内容を配信し、周知を行ってまいります。

す。また、これまで同様各地域で年間1回以上の出張遊び場を実施するほか、これまで冒険遊び場実施実績のない公園等における実施も検討するなどにより、事業周知に向けた取り組みを進めてまいります。引き続き皆様のご協力を賜りますよう、お願いいたします。

以上で報告を終わります。

志村委員長

お疲れ様でした。ありがとうございました。

長時間になりましたけれどもたくさんの実績を発表いただいたかなというふうに思います。

それではここから質疑応答という形に入らせていただきます。ご質問あるいはご意見等ございましたらお願いをしたいと思います。

手を挙げていただくか、お声を上げていただいて、お願いします。

コロナ禍にしてはずいぶんしっかり活動ができていて、さらに入場者も増えていってすごい人気があるんですね。ちょっと安心しました。ご質問等はよろしいですか。

後藤委員

よろしいでしょうか。事業報告を聞いていて、この一年楽しい活動をされていて素敵だなと思っています。ただ、この活動を否定している訳ではないのですけれども、今回初めて冒険遊び場協働運営事業の委員に携わらせていただくのですが、どういう立ち位置でこの事業を見て良いか悩んでおります。そもそも冒険遊び場協働運営事業とは、活動内容に関わらず、どの自治体も全額市で負担して実施しているものなのでしょうか。

事務局

ご質問ありがとうございます。

冒険遊び場事業は、国においても居場所づくりなどの一環として、重層的支援体制整備事業の中に位置付けているものです。費用の負担については、補助金でそれぞれ国、県、市が3分の1ずつ支出しています。

後藤委員

一般的な補助金と同じもので補っているということですね。協働事業者からするとこの補助金で負担されている金額というのは十分な金額なんではないでしょうか。

協働事業者

毎年、子ども支援課と負担金額について協議はさせていただいておりますが、施設を安全に運営できるようにするための人件費についてはかなり考慮いただいているかと思います。

後藤委員

ありがとうございます。冒険遊び場というのは誰でも自由に使える居場所で利用者としては費用が掛からないものということが根底にあるということですかね。

安全面は考慮しないといけないと思いますが、どれぐらいを目標に利用者数を増やしていくつもりなのでしょうか。

協働事業者

目標というのは設けていません。今の人員配置に対しての利用者数は安全面を考慮して運営するうえで理想的であると考えています。午前中の未就学親子の利用人数が少ない現状がありますので、平時でも一定数利用していただき、かまくら冒険遊び場梶原が親子同士での交流の場となるようにしていくことが目標になりますでしょうか。

後藤委員

ありがとうございました。

志村委員長

はい、ありがとうございます。本日は三人ですので、ご自由にお話いただいて大丈夫です。

出川委員

先ほどはご説明いただきまして、ありがとうございました。

やまもりさんの説明資料にありました、イラストに描かれている内容は冒険遊び場の事業全体を非常によく表したものだなと感心しておりました。これはどなたが描かれていらっしゃるものなのでしょうか。

協働事業者

ありがとうございます。これは私達団体のメンバーではないのですが、いつもお願いしているデザイナーがいらっやいまして、その方をお願いしております。

出川委員

そうですか。素晴らしいイラストで感心をいたしました。この5年間で着実に活動が実を結んでいるように思い、感心しております。時間とともにスタッフが増えたり、変わったりする場面もあると事業に対しての情熱が薄れていく団体、市民団体等を多く見てきましたが、やまもりさんは5年経った今でも変わらずに運営されているかと思います。

普通の遊び場と違って冒険という名前がついていますので、より安全管理ということの徹底は必要であると思います。様々な新しいことを実施するのもよいことかと思いますが、焦らずゆっくり着実に一番大事である安全管理を行い、事業を進めていただければと思います。

協働事業者

ありがとうございます。

志村委員

わたしも質問よろしいでしょうか。だいぶ前に比べると協力してくれている方々が多いと感じています。オープンデーでは地域のお父様が来ていただいていると先ほど説明があったかと思いますが、必ずしも来ている子どもさんの保護者とは限らないのでしょうか。

協働事業者

そうですね。来館するお子さんの保護者ですとか、その保護者同士つながりがあってそのついで会館に呼んでくれるようなケースがあったりと様々です。

志村委員

ありがとうございます。出張冒険遊び場でいろんな地域に行って実施しているのが、とてもすごい取り組みであると感じました。出張冒険遊び場の目的なんかもお聞きしてもよろしいでしょうか。

協働事業者

出張冒険遊び場は常設以外の地域で年6回実施することで鎌倉市全域の方に利用していただくことと子ども一人でも遊びに来られて自由に遊べるような形をとっています。

志村委員

ありがとうございます。市としては、出張冒険遊び場についてはどのようにお考えでしょうか。

事務局

冒険遊び場につきましては利用者の方や議会からも各行政地区ごとに設置をしてほしいという要望は出ていますので、市としても検討はしているのですが、なかなか適地がございませんので、引き続きの検討ということで、こどもみらい部でも取り組んでいるところでございます。

施設の立地上、市内全域の方が利用するのは難しい面もございますので、出張冒険遊び場を各地域で実施をして、利用していただけるよう努めて参ります。事業報告の時に報告していませんが、令和6年度（2024年度）から月1回の日曜日の開所を実施予定です。

志村委員

ありがとうございます。この事業って開始してからもう5年経っているかと思います。今まで利用者の人数の拡大を目標にやってきていると思うのですが、事業の振り返り・分析が大事になっている時期なのかなと感じています。当初からこの事業に関わっていますが、事業自体にも限

界はあるのかなと思います。利用者人数を増やすことも大事であるとは思いますが、拡大しすぎて、安全面が担保されなくなってしまつては本末転倒なのかなと。やまもりさんも事業を通して、この5年間で色々なことが分かってきたかと思います。今までの経験・データを一度分析して、事業の質を高める方向にシフトしても良いんじゃないかなと思います。

後藤委員いかがでしょうか。

後藤委員

10歳前後までに自然から受ける刺激っていうのは一生の脳の発達に関わる大事なことだと思います。ただ、昨今の社会を見ても、冒険遊び場のような施設に行かないとそういう自然とのかかわりができない残念な社会だとは思いますが。今の日本って教育上遊びの必要性が薄弱なので、きちんと勉強ができるとか、ちゃんと人の話を聞けるようにとか、行儀よく振舞える子になってほしいとかそういう方が優先になってしまうんですね。そうではなくて自然に触れながらケガをしながら遊んでいくのも大事なかなと。そういった意味では冒険遊び場のポテンシャルはともあると感じます。冒険遊び場で体験できるようなことが社会の普通になっていくといいですね。

志村委員長

はい。ありがとうございます。もう強力な応援演説ですね。

協働事業者

ありがとうございます。鎌倉の私立の幼稚園ってとても特色がある幼稚園が多くて園の活動を通して、自然に触れることが多いかと思うんですが、そこから公立、私立含めて小学校に上がった途端に自然に触れたりする機会が減るんですね。自然が控えている冒険遊び場で過ごしてもらふことで、少しでも自然に触れたことを思い出しながら過ごしてもらえればと思います。

志村委員

ありがとうございます。

逆質問なんかもありかもしれないですね。やまもりさんからはいかがでしょうか

協働事業者

学校に行けないいわゆる不登校の子たちにかまくら冒険遊び場梶原のような居場所の情報を届けるにはどうすればいいのかご意見いただければと思います。

志村委員

教育委員会絡みになるのかなと思いますが、そのあたり市としてはいかがですか。

事務局

個人情報の絡みがありますので、中々協力を得るのが中々難しいかと思います。令和7年度から不登校特例校制度が始まりますので、その際に掲示をしてもらうことの提案をするかといったところでしょうか。

志村委員

ありがとうございます。部署の垣根を越えた柔軟な対応をお願いしたいところですね。

協働事業者

ありがとうございます。もう一点質問させてください。多世代交流の場を設けたいと常々思っています。保護者以外の地域の方々が子ども達を見守るような仕組みづくりをしたいと思っていますが、なにかいい事例等がありますでしょうか。

志村委員

その分野ですと出川委員が詳しいですかね。世代を超えて交流している事例とかはありますでしょうか。

出川委員

二年前に市との梶原山町内会との協働事業で梶原大通街路樹再生事業をやっていたかと思います。お話を聞くと町内会ではその町のために貢献したいと思う方が大勢いらっしゃったのが印象的でした。今ある地域資源を活用して、町内会の皆さん、様々な市民団体を巻き込みながら事業を進めていってもよいかと思います。

志村委員

はい、ありがとうございました。質問に対して的確な回答だったと思います。大学とかとは連携は取らないのでしょうか。

協働事業者

昨年湘南医療大学のボランティア部の方々にご協力をいただきました。他の大学等はまだ連携はしていないので、積極的に関わっていきたいと思っています。

志村委員

今大学でもフィールドワークを重要視するところも多くなってきていますからいいかもしれないですね。今後子育てをしていく世代になるかと思うので、小さい子どもへの接し方の勉強にもなりますからね。

ちょっと予定の時間をオーバーしておりますが、他にご質問ご意見いかがでしょうか。大丈夫

ですか。

それではこのあたりで質疑応答は終了させていただこうかと思えます。

ありがとうございました。

それでは全体を通じましてご意見・ご質問等おありになる方いらっしゃいますでしょうか。

はい、それじゃあちょっと時間も過ぎておりますので、本日の検討委員会はこれにて終了とさせていただきますと思います。それでは事務局にお返しいたします。よろしくお願いいたします。

松本次長

長時間にわたりまして貴重なご意見いただきましてありがとうございます。今後も引き続きやまもりさんと協力して良い事業となるように、努めていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

それでは、これもちまして令和5年度1回目の検討委員会を閉会とさせていただきます。

今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中ご参加いただきましてありがとうございました。